

エルピス会便り

2022年もあと少しで終わろうとしていますが、皆様はいかがお過ごしでしょうか？

今年は近年になく平和について、戦争について、考えさせられる年でもありました。戦争はある日突然に起きるものではなく、毎日の生活の中で私達が気付かない間にも少しずつ準備されていくものだど……。そんな話を聞きました。

「聖マルティンの家」の子ども達のように、お互いが思い合い助け合っていればどんなに良いか……。と。

先日、ボリビアの野原昭子さんと電話で話が出来ました。聖マルティンの家の皆さん元気に過ごされているようです。又、お二人が九月末からボリビアに行ってお下さっています。お二人はクリスマスカードを作るお手伝いをするなど、クリスマスに向けての準備もしています……。との事でした。帰られてからのご報告も楽しみですね！！

本年も多くの方に支えられて、又「聖マルティンの家」の利用者の方達に力をもらいながら、エルピス会の活動が出来ました事を心から感謝申し上げます。

新年に向け、皆様の御健康と御多幸をお祈りしつつ御挨拶とさせていただきます。

2022年12月吉日 特定非営利活動法人エルピス会 代表 俵 靖子

●今月から3人のボランティアが来てくれます。2人は神学生で神父になる準備をしています。彼らは毎週土曜に6時間子供の世話をしてくれ、家のあちこちのペンキ塗りも頼んでいます。助かります。

もう1人は韓国人のシスターで週2回、半日来てくれます。スペイン語になれるというシスターの意向と、子供たちと多く触れ合ってもらおうという、私たちの思いです。



2022年10月31日着信(昭子さんよりメール)

●10月3日、日本からお二人のボランティアさんが無事コチャバンバに到着しました。11月24日までBOLIVIAにいる予定です。

おひとりは初めての南米のようでありと旅行を計画しています。勿論ここで子供たちと過ごしたり一緒に畑で働いてくれたり助かっています。もうひとりのボランティアさんはみんなが知っている人なのでお互い楽しくやっていますよ。日本に帰ってから彼女たちからの感想も聞いてくださいね。

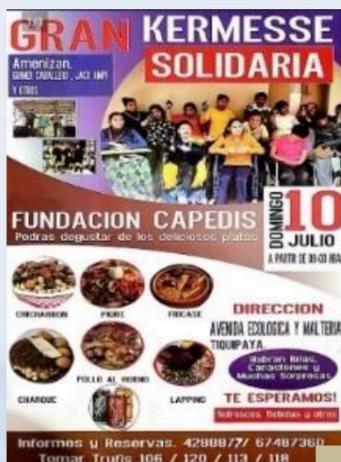
●4年ぶり？にみんなでクリスマスカード作りをしています。

ここから日本に送る郵便システムがなくなって出せなかったのですが、今回ボランティアさんが11月末に帰るときに持って行ってくれるということで、その善意に甘えることにしました。お楽しみに。

●FANNYの病状が悪化して10月10日にまた入院しました。検査の結果腫瘍が大きくなりもう手の施しようがないとのこと。

田舎から母親にも来てもらい、医者とも話して、最後は家族のもとで過ごすようにとの医師の勧めを受け、11月4日に田舎に連れて帰ることにほぼ決まりました。

1週間ほど前に突然目が完全に見えなくなり、光さえ感じられなくなったと言った数日後には、足に力が入らず歩くことさえできなくなりました。勿論手にも力が入らなくなり日々つらい時を過ごしています。手の施しようがないと言いながら、その医師から5000ドルほどかかる治療法を試したいといわれたようですが、母親はもちろん私たちの方にもそんな大金は持ち合わせがないので、残念ですがあきらめてもらうことにしました。とても悲しいニュースです。



2022年7月2日着信(昭子さんよりメール)

どこも不況の真ただ中で、店の売り上げもまだまだ伸び切れていません。畑も今は冬で野菜なども凍結し、鶏も凍死したり、卵も産まなくなったり、収入が支出以下の最悪の状態です。7月の10日にまたバザーをします。多くの協力者が寄付してくれています。

明日7月3日、3か所の教会に3つのグループに分かれ全員、食券売りや寄付集めに出かけます。

子供たちは遠足気分で大喜びです。成功をお祈りください。

10日のバザーのポスター

2022年7月30日着信(昭子さんよりメール)

サンタクルースの日本人移住地の数人の方から今年もたくさんの米と穀物の寄付が届きました。

たまたま子供たちが畑に行く日だったのでワイワイ大はしゃぎして作業しました。

2俵の米袋(約100kg)を担いでいるのはEMILIOさんいつも頼もしい働きぶりです。



働き者の
エミリオさんに
感謝!